

思い出詰まった学び舎に別れ

溝口、日光小で閉校式 4月統合で新生「溝口小学校」に

児童数減少のため、平成28年度から統合することになった溝口・日光小学校の2校で3月24日、閉校式が行われました。式典には、在校生、教職員のほか、卒業生や地域住民が出席し、慣れ親しんだ学び舎に別れを告げました。



青戸智子校長が後藤弥教育長に校旗を返納

日光小 98年の歴史に幕
日光小学校の閉校式には、在校生8人と教職員のほか、母校と過ごす最後の時間を胸に刻もうと、卒業生や地域住民ら100人以上が集まりました。

多くの出席者が見守る中、児童が一人ずつ学校生活の思い出を発表しました。その後、出席者で校歌を合唱し、青戸智子校長から後藤弥教育長に校旗が返納され、日光小学校98年の歴史に幕を下ろしました。



▲タイムカプセルに思い出の品を詰める日光小児童たち



▲日光小で過ごした思い出を発表する児童



▲慣れ親しんだ日光小校歌を出席者全員で歌い納め



▲統合後の新しい校章・校旗を披露する小藤敦彦校長



▲校章デザイン原案制作者の西村繁治さん



▲旧溝口小の校歌を刻んだ歌碑が小学校前庭に設置された

新生溝口小学校 新たな出発

溝口小学校の閉校式では、統合により校旗・校歌・校章が変わるため、旧校歌の唱納と校旗返納が行われました。また、昭和26年度から65年間歌われてきた旧校歌を忘れないようにと、歌詞と譜面が刻まれた記念碑が小学校前庭に設置され、閉校式後に除幕式を行いました。

新しい校旗・校歌・校章は、4月7日に行われた閉校式で披露され、新生溝口小学校の新たな歴史をスタートさせました。

日光小のあゆみ

日光小は、雪深い地域の特性を活かして、クロスカントリースキーや冬季大運動会など、独自の取り組みを行いました。また、わらび採りやとんどさんなど、季節の行事を地域住民とともに楽しみ、教育の場のみならず、地域の心の拠点として親しまれました。

大正7年の創立から昭和28年まで、250人前後の児童が在籍しましたが、徐々に児童数が減り、平成19年以降は20人を下回りました。

創立98年の歴史を持つ伝統校で、2,339人の卒業生を輩出しました。

沿革

- 明治6年 長泉寺に第4大区第3番中学区第16番小学大坂学校を開設
- 明治7年 添谷分校、大河原分校、吉原雪中分校を開設
- 明治7年 日光村の発足に伴い、大河原、大坂、添谷尋常小学校、米金尋常高等小学校を統合し、日光尋常高等小学校と改称本校を吉原に設置し、大河原・大坂・添谷は分校となる
- 大正7年 新校舎建築、本校を大滝に置く
- 昭和9年 大坂分校を廃止
- 昭和16年 国民学校令により、日光国民学校と改称
- 昭和22年 学制改革により、日光村立日光小学校と改称
- 昭和29年 日光村が江府町と溝口町に分村合併したことに伴い、溝口町立日光小学校と改称大河原分校は江府町に移管され、江尾小学校に編入
- 昭和31年 溝口町・江府町学校組合立日光小学校と改称
- 昭和32年 添谷分校が溝口小学校添谷分校となる
- 昭和37年 学校給食開始
- 昭和41年 日光小学校校歌制定
- 昭和50年 全保護者が参加し、冬季大運動会開催
- 昭和58年 学校組合を解消し、溝口町立日光小学校と改称
- 昭和62年 添谷分校が日光小学校に復帰
- 平成2年 児童不在のため、添谷分校休校
- 平成4年 児童1名在籍により、添谷分校開校
- 平成7年 新校舎に新校舎・体育館が完成
- 平成8年 新校舎に移転
- 平成17年1月 2町合併による伯耆町発足に伴い、伯耆町立日光小学校と改称
- 平成22年4月 児童数減少のため、添谷分校休校
- 平成28年3月 閉校